熊大教育実践研究　第26号，7－15，2009

高機能広汎性発達障害における心理劇の効果
—グループ創設期の事例の経過と現在—

髙　原　朗　子*

Psychodrama in Children and Adults with High-Functioning Pervasive Developmental Disorders. : Case studies in year X, year X + 1 and year X + 11

Akiko TAKAHARA

Abstract

This paper presents the results of 12 years' research into the application of psychodrama as a treatment for children and adults with high-functioning pervasive developmental disorders (HFPDD). A total of 36 sessions were performed on Saturdays twice a month over 2 years : year X and year X + 1. And there were some reports in year X+11. Varied dramatic themes were employed to explore the subjects' thoughts and feelings about personal relationships in different situations. Through this experience, subjects were encouraged to express and organize a wide range of feelings and were able to cultivate friendships. The validity of psychodrama as a treatment for young people with HFPDD was also investigated.

Key Words: high-functioning pervasive developmental disorders (HFPDD), high-functioning autistic disorder (HFA), Asperger's disorder (AS), psychodrama

1．はじめに

筆者は，高機能広汎性発達障害者に対して，15年ほど前から心理劇を施行するグループをいくつか組織した．本稿では，その中で成人の発達障害者に対してこの12年行っている青年学級における初年度X年～X＋1年の2年間，月2回土曜日に行われ，36セッション心理劇を施行されたその詳細な様子と12年目の状態についてまとめたい．

ところで，自閉性障害児における仲間関係を育てることの意義について以下に挙げる．自閉性障害の診断においてDSM-Ⅳでは対人関係の相互反応における質的な障害を，ICD-10でも相互的社会関係の異常を挙げている．また，Wing（1981）などで，自閉性障害者やアスペルガー障害者にとって仲間関係の形成が大変難しいことは長く主張されてきた．その様な問題を改善するため，筆者らは他者との安心した関係づくりと，それに伴う個々人の感情表出の促進を目指して自閉性障害者やアスペルガー障害者に対して集団心理療法の一つである心理劇を適用し，その経過について報告してきた．初期には，知的障害者の施設に入所している3名の自閉性障害者の心理劇の様子を通して通常は不適切な言動としてみなされることが心理劇の場では自発的な行為として変わり得ることが観察された（髙原 1993）．また，自閉性障害者なりの感情表出や他者への関わりが心理劇の場面では出現しやすいことが認められ（髙原 1995），さらにその後行われた高機能自閉性障害に対する心理劇では『過去』『現在』『未来』の劇化を通して本人の自我を強めることの意義について検討した（髙原 1998）．髙原（2000，2001a，2001b）では，高機能自閉性障害やアスペルガー障害児・者に対する心理劇によってその症状は有しながらも他者に対して多少配慮できるようになり，この療育グループの場では他者に暴言を吐くことも減っていった事例を紹介した．

その活動を通して対象者は多くの感情を表出し整理し，仲間関係をはぐくんできた．この報告を通して青年期の高機能自閉性障害者にとっての心理劇の有効性について検討したい．またX＋11年目の事例の様子を簡単に報告し，その変化や不変な部分について考えたい．

* 教育学部

2．事　例

(1)事例について

全対象事例９名の簡単な状況については表１に示す．なお，本稿では紙面の都合上，９名中，高機能自閉性障害とアスペルガー障害の各２名，計４名のセッションの内容を記述している．また，事例の呼び方はすべて仮名で統一している．

(2)セッションの内容

Ｘ年より２年間行われた計36セッション（以下適宜Ｓと記す）の簡単な内容等を表２に記す．

(3)４事例の経過

以下４事例について，表２のようにＸ年からＸ＋１年の２年間を経過を半年毎４期に分けて記述する．また，Ｘ＋11年目の様子を簡単に示す．

１）さちえ

心理劇開始時の様子：養護学校高等部卒業後，Ｗ水産という工場で勤務・加工食品のパックつめなど行っていた．いじめる人もいるということだが，何とか仕事をしている．えいじとは電話友達，しかし，どちらも自分から電話を終わらせられず，さちえが母に助けを求めることも多い．用心深いため性的なトラブルなどはない．「ごめんなさいけど…」は口癖．手紙を書いたり電話をしたりするのが好きで，あまり関係のない人に手紙を出し，多少トラブルもあった．10年ほど前に心理劇を体験しており，その時の心理劇のパターンにこだわっている．

心理劇の経過

第１期

S1：「劇の中では『高橋』になります」と架空の名前を用い『高橋家』の構成など全部自分できめる．その他のセッションでは，観客であった．

第２期

S7：夏休みにアメリカに行った事を話し，それを劇にした．「私『市之瀬貴子』さんになる」と架空の名前を用い，その名前の家族を選んだ．S8：「えいじが話した富山に行った劇をしたい」と言い，『市之瀬家』で行く事にする．新幹線に乗った場面と，海で波に追いかけられ楽しむ場面を演じた．この頃からスタッフに沢山話しかけるようになってきた．S16：韓国旅行の劇をしたいという．船が「しけ」になった場面と韓国観光の劇を行った．S15：ハワイ

表１　事例の概要

事例	性別	年齢 Ｘ年次	診断名	処遇・職業・身分
けいすけ	男性	28	自閉症	入所施設
えいじ	男性	30	自閉症	事務職
ともた	男性	30	自閉症	入所施設
しんご	男性	20	高機能自閉症	通所施設
さちえ*	女性	30	高機能自閉症	工場勤務
ゆうたろう*	男性	27	高機能自閉症	入所施設
しんいち*	男性	15	アスペルガー障害	高等学校
りょうすけ*	男性	16	アスペルガー障害	高等学校
ゆうさく	男性	19	アスペルガー障害	通所施設

＊本論で示された事例

表2　心理劇セッションの内容

	セッション	心理劇のタイトル (取り上げられたテーマ)	主役	その他の主たる役割
第1期	1	鹿児島バス旅行 (家族・旅行)	ともた	さちえ・ゆうたろう・りょうすけ・スタッフ
	2	三顧の礼 (ファンタジー)	りょうすけ	スタッフ
	3	秋田飛行機旅行 (友人・旅行)	ともた	えいじ
	4	くらげ (母親)	ゆうさく	ゆうたろう・スタッフ
	5	蚊 (ストレス)	りょうすけ	ゆうたろう・スタッフ
	6	高校受験のための進路相談 (ガイダンス)	しんいち	スタッフ
第2期	7	アメリカ旅行 (家族・旅行・趣味)	さちえ	ともた
	8	富山旅行 (旅行・趣味)	ともた	さちえ・えいじ
	9	赤ちゃんとお婆ちゃん (家族)	りょうすけ	えいじ・スタッフ
	10	幼稚園 (友人)	けいすけ	りょうすけ
	11	小学校 (友人)	ゆうたろう	けいすけ・ゆうたろう・ゆうさく・りょうすけ・スタッフ
	12	カビゴンの家族 (ファンタジー・家族)	りょうすけ	えいじ・スタッフ
	13	Yさんの所の草 (ストレス・異性)	ゆうさく	スタッフ
	14	運動会 (ストレス)	けいすけ	全員
	15	ハワイ旅行 (旅行・趣味)	けいすけ	全員
	16	韓国旅行 (旅行・家族・趣味)	さちえ	全員
	17	コミックマーケット (友人・趣味)	りょうすけ	全員
第3期	18	プレゼント (友人)	全員	全員
	19	結婚式 (友人・家族・異性)	さちえ	けいすけ・ゆうたろう・ゆうさく
	20	桜の木の下で (友人・異性)	全員	全員
	21	同窓会 (友人)	しんご	ゆうたろう・ゆうさく
	22	海辺での誕生会 (家族)	ゆうさく	けいすけ
	23	携帯電話 (趣味・ストレス・友人・母)	しんいち	ゆうさく・りょうすけ
	24	学校での事故 (けが・友人・ストレス)	ゆうさく	さちえ・りょうすけ・しんいち
第4期	25	サッカー (友人)	ゆうさく	えいじ
	26	亀 (家族)	さちえ	ともた
	27	水 (旅行・家族)	ゆうたろう	スタッフ
	28	夏の日の思い出 (家族・旅行)	さちえ	スタッフ
	29	都市高速 (友人・趣味)	ゆうさく	りょうすけ・しんいち
	30	怪我しちゃった (友人・ストレス)	しんご	スタッフ
	31	列車 (友人・旅行)	さちえ	えいじ・ゆうたろう
	32	夢タウン (友人・旅行・趣味)	ゆうたろう	ともた・けいすけ・りょうすけ
	33	僕の職場 (友人・ストレス)	えいじ	しんご・スタッフ
	34	パソコン (趣味・異性)	ゆうさく	ゆうたろう・スタッフ
	35	仙台旅行 (旅行)	ともた	全員
	36	成人式 (友人)	しんいち	全員

の劇では自分で役を振り当てる．劇では目立った動きは見られなかった．S17：コミケの劇では，促されると動くという感じで，その場にいることを楽しんでいた．

第３期

S19：いとこの結婚式のエピソードを劇にした．『市之瀬家』の貴子役をし，シェアリングでは，「度派手な結婚式が再現できたことが良かった」と言っていた．S18：監督が「何故いつも市之瀬貴子さんなの」と訊くと「本名，さちえでは恥ずかしいから」と答えた．また新郎をからかっていたりょうすけに「面白いことしていた」と言っていた．S22：プレゼントで，補助自我Ａに対し，「結婚式で着ていけるような着物」をあげていた．また，補助自我Ａから「春の香り」を渡されると「イチゴのにおいがします」と答えるなどイメージ豊かであった．「来年度も青年学級を続けてください」と大きな声で言うこともあった．S22：海に行って誕生会をする劇では，いつもの市之瀬貴子でなく『かわいそのこ』になると言った．周囲に合わせて動いていた．S24：最近のことで，小学校の殺人事件のことが気になるというのでディスカッションという形で劇化した．話し合いの場面では自発的に話すことはなく，じっと聞いていた．監督がどう思うか尋ねると「恐いです」と答えた．

第４期

S26：「父親と散歩している時，石亀を見つけびっくりした」と言い，それを劇にしたがった．父親にともた，弟にえいじと，いつもと同じ役割を要求した．亀としてけいすけをリクエストした．「さあ散歩にいきましょう」と言ったり，こわがりながら亀を助けようとしたり自発的に動いていた．S28夏の一場面の劇では，『佐々木智子』という役でアイスクリームを食べる役をした．東京ディズニーシーでは，ダンスをする動きや写真を撮る動きを自発的に行った．S31：ウォーミングアップでは，秋病の劇をしたいと言っていた．秋病とは五月病の秋になる病気とのことで，職場にいきたくないことだそうである．もうひとつ電車の劇を希望し，本人自身の役で父親や友達と電車になる劇を行った．父親にともた，弟にえいじといつもと同じ役割を要求した．えいじに対し「見て，川があるよ」など言っていた．自分が「やりたい」と言った劇以外は「見ている」と言って観客になることが多かった．

Ｘ年からＸ＋１年のまとめ

第１期では，あまり積極的ではなく，観客として見ていることが多かったが，第２期以降変化があった．第２期では，スタッフと話を多くするようになった．第３期・第４期では，相手の状況で優しい言い方に変えたりする．全体として，自分が嬉しかったことやつらかったことを発言し，それを自分で役を振りあて，演じることが増えた．

Ｘ＋11年の様子

自分の役にはけいすけを，その相手にはえいじをというようなパターンやいつも同じような話題を同じような流れで劇化したがることは変わらないが，一方で，他者の劇を見て自分もこうしたいと伝えてきたり，他者の劇で補助自我として参加したりと変化も出てきた．また，最近は初めて会う新人のボランティア参加者を自分のダブルとして指名し，その人達との交流を楽しむという人間関係の広がりが出てきた．

２）ゆうたろう

心理劇開始時の様子：小さい頃から過敏で対人関係のトラブルでチックが激しく起こることがあった．異性への関心が高く，テレビや雑誌の性的な発言やグラビアにこだわり，異性のボランティアに手紙を書くなど施設入所でのケアが必要であった．性格は陽気で穏やかである．心理劇は施設入所以来８年間施行されており，心理劇の中で情動を表出することを知っている．

心理劇の経過

第１期

S1：他のメンバーの発言に対し，いろいろその場に応じた質問をする．白秋の生家に行き，古い文庫本やカセットを見たと話した．「それからねー」「なんかねー」とたくさん話したがった．しんいちから白秋のことを質問されると「昔の人が小説を書いた，マザーグースの角川文庫」と答えた．鹿児島行きの高速バスでは運転手役をした．しんいちがバスの中でタバコを吸い，それに対して他の乗客は不満を言った．すると本人も「だめよー」「バスの中では禁煙はやめてください（間違った言い方）」と言っていた．「ただいまより禁煙しましょう」と言ったり，しながら，右手でハンドルをぐるぐる回したり，ハンドルさばきの演技は上手かった．結局運転手が警察を呼ぶという話になった．シェアリングでは，「大変やった」としんいちを指して言っていた．「煙が出てねー」「火事になるよね」とも言っていた．S3：秋田へ飛行機で行く劇では，スチュワーデスにウーロン茶を頼み，飲んでいた．「着陸とはどういう意味，離陸とはどういう意味？」と訊いてきた．S4：クラゲに追いかけられる劇では，指名されなかったが，

自分で出てきてクラゲから逃げる役をとった．「きゃー」と叫んで，走って逃げていた．監督から「どうして逃げたのか」と聞かれると「恐い，来ないでよー」と答えた．「どうしてクラゲは追いかけてくるのかな？」との問いには，「何でかなー」と答えた．S5：蚊をたたくしんいちと同じように動いたりした．しんいちを真似して蚊が来ると「ばんばん」と言いながら激しく叩く振りをしていた．感想では「はえ叩きで蚊が来たらばんばんやっつけた」と言い，「蚊が死んで，やったー」と言っていた．

第2期

S7：アメリカ旅行の劇では，ハンバーガーを作る店員の役を演じた．泥棒が店内に入ってくると泥棒に向かって「バン」と言いピストルを撃つ振りをした．シェアリングでは，監督に「何した？」と訊かれると「何もしていない，お金取られた」と言った．自発的に行った行動を覚えていなかった．S8：富山に行く劇では，新幹線に乗っている一般客を演じた．「お弁当下さい」と言ってお弁当を買う演技を行った．海の劇では，ピースしながら写真に写る役をした．S10：幼稚園の劇では，三輪車に乗る役を上手に演じた．S11：小学校の劇では，砂場で遊ぶ子どもを上手にやっていた．花一匁（はないちもんめ）の場面で，「ゆうたろうが欲しい」と言われ嬉しそうにしていた．S14：運動会の劇では，楽しそうに真剣にやっていた．シェアリングでは，「どきどきした」と答えた．S15：ハワイの劇では，皆と同じようにスムーズに動いた．シェアリングで「ただ食いしている人がいた」という話を聴き「本当ですか？」と大声で聞いていた．S16：船長役をし，船内アナウンスを補助自我の促しで行った．また観光客の役もやり，寺院で拝むとき「洟垂れ小僧」と言った．S17：コミケの劇では，ガオレンジャーの仮装を自発的に行い，補助自我Ｉが「あ，ガオレンジャーだ」というと，変身と決めのポーズをしていた．

第3期

S18：プレゼントは補助自我Ｋから「これからも青年学級でがんばろうという気持ち」をプレゼントされ，自発的に「これからもがんばるぞ，オー」と言っていた．その後，「僕にがんばろうという気持ちをプレゼントしてくれたのは僕が居眠りしていたからですか？」と訊いてきた．この時期，自分が興味ない場面では，居眠りすることが多かった．来年も青年学級を続けてくださいと筆者に手を合わせてお願いしていた．S19：結婚式の劇では，新郎の友人役となり新婦の介添人に「おばさん，おばさん」と言ったり，新郎に「おめでとう」と言いながらクラッカーをならすなど青年らしい役がとれていた．シェアリングで監督が「ゆうたろうも結婚したい？」と訊くと，にやにやして「うーんわからない」と答えていた．S24：舞台にはでてくるがあまり積極的ではなかった．アルバイトの話になると新聞配達という．その頃起こった小学校での事件については，監督の問いかけに対し「ピンクチラシ貼ったらいけませんね」と言うなど，殺人よりゆうたろうにとってはピンクチラシの方が大きな興味をしめていた．「ピンクチラシ見たいの」と訊くと「見たらいけません」と即答してきた．

第4期

S26：石亀の劇では自発的に亀の役をしていた．S27：水取の劇では主役になり，水をくむ役をする．発言も多かった．S28：夏の劇では太陽の役を自発的にやっていた．持続力・集中力あり．ディズニーシーの劇では，パレードの場面で自発的に参加していた．非常によく話していた．S29：都市高速の劇ではクレーン車の役になり，腕を伸ばしたり，上下させたりしていた．S32：夢タウンの劇では，店長役になり自発的にテープカットをした．またその後店員役となり客とやりとりしていた．一万円で払おうとする客に「だめ」と言っていた．S33：職場の劇ではえいじが職場でいじめられている話を聴くと「げんこつされたことある？」と適切な質問をしていた．S36：成人式の劇では「だめな成人」「良い成人」どちらも上手にする．「だめな成人」では式の途中でカラオケに行く役で県知事をカラオケに誘っていた．

Ｘ年からＸ＋１年のまとめ

ゆうたろうは，このグループが始まる以前から心理劇治療の対象であり，心理劇での動きについては集団メンバー中一番熟知していた．そのために，第一期から積極的に劇に参加した．自分の持っている社会的知識を表現し，自発的な動きや発言も多かった．しかし，第３期でみられたように，社会的な大事件の話をしているのに自分の興味・関心の対象である「ピンクチラシ」のことを言い出すこともあった．

Ｘ＋11年の様子

自分の悩みを劇化したがり，わからない言葉や動作については積極的に質問するなどこの10年，一貫して参加意欲が高い．仲間との交流も多く，スタッフや対象者にいろんな話しをしてくる．ただし，その話題は自分の興味関心にもとづくものが多い．このグループでの活動を非常に楽しんでいる．

3）しんいち

心理劇開始時の様子：小さい頃から普通の知的能力を持っているとまわりに思われ，かなり無理をしてきた．話し方は普通である．テレビのニュースやサッカー・野球が大好きでその話を始めるととまらない．何人か友達がいて，休日はいっしょにサッカー観戦などしている．将来に対する不安が強く，不安なことは質問しないと気が済まない．心理劇体験は今回が始めてである．

心理劇の経過

第１期

S1：最近のできごとについて聞かれると「この前，自分が釣りに行って戻ってきたらバスジャックでみんな騒いでいた」など発言した．劇には恐がりでなかった．「バスジャックされると恐いから」だそうである．「28日に体育祭があるから疲れるから心理劇はしない」「３年生になるといろいろと大変」など言っていた．S6：高校受験のための進路指導の劇を行う．劇では，真剣に本当の面接のように質問をしてきた．「どうやって試験を受けたらいいか，試験に受かった後，入学するまでどんな手続きが必要か」などであった．劇終了後も，「手続きの日を過ぎるとだめなんだ」と言っていた．「学校やお母さんがそのことはよくわかっているから大丈夫だよ」と伝えると落ち着いて「学習塾へ行く」と言っていた．

第２期

S15：しばらく高校受験のためお休みしていた．合格したことを皆に嬉しそうに報告した．心理劇にも演者として参加した．S17：今日は参加しないと言い，観客として見ていた．ダイエーのことやサッカーのことなどよく話してきた．「〇〇内閣はやめろ」という劇ならしても良いと言うが劇化できなかった．

第３期

S20：桜の木の下でという劇では，退職したスタッフと会いたいと言い劇化する．その相手に対し自分が留年しないか不安であると訴えていた．補助自我Ｔに励まされ元気が出たと言っていた．人の劇は見ていなかった．S24：五月病の劇では五月病の人を励ます人の役をした．学校での生活がストレスである様子であった．このころから監督に「カウンセリングをして欲しい」と毎回行って来るようになった．S23：携帯電話が欲しいのに母親が買ってくれないと言い劇化することとなった．どうしても欲しいと言い，携帯電話を持つことのメリットばかり挙げていた．デメリット（経済的なことなど）はわかっていても聞きたくない様子．S24：小学校の事件の劇では，「大学生がしたら退学になりますね」と自分の興味関心の話題にずれていった．だて眼鏡が欲しいとのことで監督に相談してきた．

第４期

この頃は，主に観客となり見ていることが多かった．S29：都市高速の劇では工事現場主任の役を自発的にする．人に指示する役をとりたがった．また，開通式では県知事の役をした．「県知事になるには大学をでなければならない」と言っていた．アメリカの同時多発テロのことが気になるようで，良く話していた．事件事故について新聞やニュースをよく見ていた．監督にパソコンが欲しいと言ってきた．このグループではレギュラーだが，他ではレギュラーになれないと言っていた．S36：成人式では県知事を自発的に上手に演じた．県知事として大声で怒り，「写真撮影ではピースとかしたらだめだ」と言っていた．「立派な県民になるように」と皆に説教をしていた．

Ｘ年からＸ＋１年のまとめ

第１期・第２期では，高校受験という，本人にとって気がかりな問題のため，お休みも多く，劇も自分の問題を劇化する以外は参加できなかった．第３期・第４期では，本人の問題をしゃべることも多かったが，他者のために演じるということはまだできないが，他者の劇を観客として見，シェアリングで感想を言うことはできるようになった．全体として，第４期で本人が言っているようにここでは，自分はレギュラー（重要な人）であるという自己効用感をもつことができていることが認められる．

Ｘ＋11年の様子

劇への参加については自分のテーマが劇化され主役の時には意欲的であるが，他者の劇には殆ど参加しない．観客として見ることは出来るが，意見なども言わない．一方で個人的な悩みを筆者をはじめとする何人かのスタッフに打ち明け，助けを求めることがある．このグループに参加することは本人にとって意味あることらしくサッカーチームの一員であるかのような発言「高原監督からオファーがあるから忙しいけどここに来るんだ，自分は永久にメンバーだからね」などとまじめに言うことがある．

4）りょうすけ

心理劇開始時の様子：会話は流暢であり，小さい頃から高い知的能力を持っていたが対人面でのトラブルが絶えなかった．現在では防衛的かつ攻撃的で，パソコンでの遊びに没頭し，日頃の生活では孤立して友達はほとんどいない．心の友である「ラビラビ」

という本人が作り出したキャラクターがいたずらをするという話を作り，それを筆者らに話して聞かせることでフラストレーションを解消している．心理劇は２年間体験しており，その場では自分を出せると思っており，好きである．

心理劇の経過

第１期

S1：高速バスで鹿児島に行く劇では乗客（『ダイテツ』という名前の人になりたいと希望）で，車中でたばこを吸ったり，携帯電話で大声を出したり，態度の悪い客を演じる．運転手が呼んだ警察が来ると，警察が乗ってきたパトカーを奪い逃走した．普段はできないことができたと満足そうであった．S2：三国志の劇では自分で提案し，孔明役を見事に演じた．他の役も振り当てた．S3：飛行機で秋田に行く劇とクラゲに追いかけられる劇は，観客として見ており，感想を言っていた．S5：蚊を退治する劇では，ナイフ（実際にはない，振りのみで表現）を蚊役に向かって投げるという演技をした．無限というゲームを劇にしたいと言うが，説明を求めると難しいからしなくていいと言い，劇化を断念した．S6：しんいちに対し受験勉強についてのアドバイスをしていた．

第２期

S8：富山に行く劇では，自ら乗客として自発的に参加し，携帯電話を使用し，デッキで電話するように言われる商社マンを演じた．日本海を観光する場面では，売店でホットドッグを25個買い，それを平らげるという役を演じた．ラビラビの話しをしたがった．ラビラビは，この頃は成長し，バイト生になっていた．S9：赤ちゃんの劇では，祖母役になり，赤ちゃんをあやしたり，急に腰が痛くなるような場面を自発的に演じた．S11：小学校の劇では，本人役を演じ一人で黙々と砂遊びしている場面を演じた．シェアリングでは，「昔の自分を思い出して，楽しいのか悲しいのかよくわからない」と言っていた．仲間といる楽しさがわかってきたゆえの発言と思われた．S12：本人の希望によりカビゴンの家族の生活を劇化した．役になりきり沢山食べたり，食べた後道路に寝るという役をうまく演じていた．S15：ハワイの劇では，ポテトを売る人をしていた．ただで食べた人の頭を叩く真似をしていた．注文された個数に合わせてポテトを渡すなどしていた．シェアリングでは，「ポテトの塩加減が少なかった」と言う．S17：コミケの劇では，主役となり，『むろみち』と言う架空の人物になった．サークルでコミックを購入したり，コスプレした人の写真を撮ったりした．シェアリングでは「熱気は少なかったが雰囲気は出ていた」と嬉しそうに言っていた．しんいちのイメージだけで場面ができあがった．

第３期

S18：プレゼントの劇では，けいすけから車のプラモデルをもらい良く眺めてけいすけにお礼を言っていた．補助自我Ｉからもらった「漫画の書き方」の本に対しては「自分のことをよくわかってもらって嬉しい」と言い，お礼を言っていた．補助自我Mに対して「パンドラの箱」を渡し，その理由として禁煙している補助自我Mに対しタバコを抹殺したいと言っていた．ただし，「タバコを憎んでいるのであって，補助自我Mのことは好き」とはっきり言うことが出来た．来年度も青年学級に来たいと手を挙げて意思表示していた．S20：桜の木の下でという劇では，ゆうさくから初めての人と仲良くしたいと言われ前にでてきて握手をした．高校の授業が７限まであり，大変だと言っていた．この日はいつもにまして機嫌が良く駄洒落が多かった．S23：携帯電話が欲しいと言う劇では，「ビジネスマンじゃないんだから」「始終電話がかかってくると思うと気が狂いそうだ」など自発的に発言した．「人とコミュニケーションすることを欲していない，もしくはそこを避けようとしている」と自分で伝えてきた．S24：小学校での事件については，監督の問いかけに対し「犯人の気持ちは分かる，人を殺したくなることもある，でも悪いことだとわかっているからしない」と言っていた．他の自閉性障害者が頓珍漢な話をすると以前は厳しく馬鹿にしていたが，このような態度は改善された．

第４期

S28：体育祭の演習で疲れているという理由で寝ていた．ゲームを買った話をしたところ，ゆうたろうに「どうしてゲーム買ったの？」と訊かれ，「欲しかったからに決まってるだろう」と答えていた．S29：都市高速の劇ではトラックの役になり，土砂を運んでいた．S32：ウォーミングアップで「世の中全て灰色に見える．花に対して無感動になった」と言ってきた．今に始まったことではないのではないだろうか．夢タウンの劇では，『むろみち』になり，補助自我Ｉに声をかけられ嬉しそうに会話する演技を行った．シェアリングでは「なつかしい友達に会えて良かった」と言っていた．S36：成人式の劇では「だめな成人」としてゲームをしている役をした．シェアリングでは「いつもの僕だよ」と自嘲気味に答えていた．「良い成人」の役はしなかった．ただ良い成人とは「公私の区別が付いていること」と明確に答えていた．一年の抱負を聞くと「大学合格め

ざしてがんばる」とはっきり言っていた．また，このグループは「自分が自分らしくいられる所」と言った．

X年からX＋1年のまとめ

第1期・第2期では，しんいちが自分のエピソードを劇化したがったり，創造的に動くことはあった．しかし，第3期・第4期では，それに加えて，他者との自発的なやりとりが多くなり，また，そのやりとりも相手のことを考えて接することが少しずつできてきた．このグループは自分らしさを認めてくれる安心できる場として位置づけられていると思われる．

X＋11年の様子

彼は，最近はあまり自分の問題を劇化することをしなくなった．むしろ初期の方がファンタジーの世界や自分の悩みなどを劇化したがっていた．今は観客としてみた劇のコメントをするか，補助自我として指名されたときにたまに参加するかである．一方，劇以外の場面では他者とよく話したり，年齢が若い高校生などの参加者にはアドバイスしたりなど，積極的である．また，最近「自分は人と関わるのが苦手だったから，なるべくそれを避けてきたが，就職活動中の現在，そのつけが回ってきて大変なんだ」など自分をよく見つめた発言が多い．

3．考　察

ここまでX年よりはじまった青年学級という心理劇を施行するグループの活動を示してきた．各事例は，それぞれ以下のような変化があった．以下，4点について考察する．

第1に，2年を半年間，4期に分けて整理したが，その結果，各期は次のような特徴があった．第1期は，模索期であった．それぞれが自分のこだわりを主にスタッフの援助によって劇化した．第2期は，他者を仲間として認知した時期であった．皆で出来る劇が増えた一方で，役の振り当てが固定してきたなどが特徴として挙げられる．第3期は，新たな関係を構築する時期であった．もう一人，メンバー（しんご）が増え，いつもの役割りに少し変化が生じてきた．第4期は，深まりの時期であり，それぞれの気になることを積極的に劇化したがる．第1期との違いは補助自我のみでなく，仲間が他者のために劇に参加できるようになった．また，事件や社会問題なども劇のテーマとして挙がるようになり，ソシオドラマとしての展開がみられてきた．

第2に，主たるテーマについて考察する．まず，趣味として，旅や買い物，楽しい思い出がよくでてきた．また，人間関係として，異性，母子関係，家族，仲間，人間関係のトラブルとしてのストレスが取り上げられた．さらにアスペルガー障害者については，進路についてのテーマが出されることがあり，彼らが現在や未来に不安を抱いていることがわかった．また，社会問題などもテーマとして取り上げられた．これらより，彼らにとって対人関係に関する様々な思いがあることが劇のテーマとして示された．彼らは一見，人との関わりを求めず，それらについて表面的には満足感も，逆に不満も持ちにくいと一般には思われている．しかし，実はそうではなく，他者との関係において様々な思いを抱いているが，それを日常場面でうまく表現できないのである．心理劇はその構造上，思いを表現しやすく，また，心理的安全を保ちつつ不安に直面できる場である．それが，心理劇のテーマにも反映されたと思われる．

第3に，自閉性障害とアスペルガー障害という，似ているけれども異なる特性を持っている障害種別の特性について考察する．彼らの共通点は，対人関係の障害と，その原因として独自の興味・関心（つまり，症状としてのこだわり）にそって，物事と直面してしまうことが挙げられる．そのこだわるという特性に関して2つの障害別の特徴が本研究における心理劇の経過より認められた．まず，高機能自閉性障害であるさちえでは，役割の振りあて方のこだわり（S1/16/26などで，自分は仮名にする，同じような役を同じ人に振り当てるなど）がみられ，ゆうたろうは自分が気になっている異性への関心や成人らしい所作にこだわっている（S19/24）．一方，アスペルガー障害者は，エピソードにこだわり，かつ，時間の概念を思わせるような事柄の流れを含めてこだわる傾向が認められた．例えば，りょうすけにおけるS13や，しんいちにおけるS12など，かなり自分のファンタジーの世界を言葉で表現でき，時間の流れに沿って役割を演じることを要求できることなどから，上記の傾向が認められた．さらに，自分の地位，立場の安全性にこだわる傾向が認められた．しんいちは，S19/36で，偉い人（市長や知事）を演じ，自分を誇示しようとした．これらの傾向は，知的障害の有無のみでなく，各事例の対人関係の障害の程度や，自己意識，他者認知の程度に起因している可能性が考えられる．こだわりのレベルによって，障害ごとの特徴は見られたが，共通して各事例独自のこだわりが劇に反映されていた点は興味深い．

第4に，仲間関係について考察する．もともと，各事例は心理劇を施行する以前から筆者が行ってきた療育活動の対象者であり，彼らはほとんどが互い

に顔見知りであった．しかし，彼らが自発的に話し合ったり，他者を気遣ったりという言動はほとんど見られなかった．しかるに，本研究での実践を通して数名の特定の他者に自発的に話しかけたり（さちえ，えいじ，ともた，けいすけ，ゆうたろう，ゆうさく，りょうすけ，しんいち），気遣いを示したり（さちえ，ともた，けいすけ，しんいち，りょうすけ）する様子が認められた．また，補助自我だけとしか話のできなかったしんいちやりょうすけが，他の対象者に話しかけたり，他者のことを話題にしたりする様子も観察された．以上より，心理劇の場を利用して対象者の仲間意識を育むことが可能であることがうかがえる．どの事例も，心理劇の場では，日常生活以上に自分らしく生き生きと存在できるようである．それは，りょうすけが第４期に言った「ここは自分が自分らしくいることのできる場だ」に象徴されていると思われる．さらに，心理劇の場は同じような「人と上手に関われない」という苦しみを持つ仲間同士のピアサポートの場として機能していることも推察される．

Ｘ＋11年目の様子からも，どの利用者も多少変わってきた部分や，変わらない部分を持ちながらこのグループでの活動をそれぞれ楽しんでいる．彼らの生涯発達支援の一技法として心理劇が有効に機能していくように今後も不断の努力を続けたい．

文　献

高原朗子　1993　自閉性障害者に対する心理劇治療の試み．心理劇研究，16,1-7

高原朗子　1995　自閉性障害者に対する心理劇－感情表出の促進を目指して－．心理劇研究，19(1)，1-8

高原朗子　1998　自閉性障害児・者に対する心理劇－２泊３日の林間学校を通して－．心理劇研究，21(2)，1-12

高原朗子　2000　思春期を迎えたアスペルガー障害児に対する心理劇．心理劇，5(1)，39-50

高原朗子　2001a　高機能自閉症者に対する心理劇．心理臨床学研究，19(3)，254-265

高原朗子　2001b　あるアスペルガー症候群の青年に対する心理劇－「ねばならない」の世界から「ゆっくりのんびり」の世界へ－．臨床心理学，1(6)，789-798

高原朗子（編著）・金子進之助・楠峰光・池田顕吾　2007　発達障害のための心理劇－想から現へ－　九州大学出版会

Wing, L.　1981　Asperger's syndrome : A clinical account. Psychological Medicine, 11 : 115-129

付記：本論文は，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（Ｃ）課題番号19530629の助成を受けて作成された．

本事例については関係者の承諾を得た上，各個人が特定されないようにその本質を損なわない部分については一部加工している．さらに本項の事例に名付けられている名前は，筆者らと主に心理劇の療育に当たっている仲間のお名前の一部を拝借した．たくさんの仲間の協力によってこの事業が行われていることに深く感謝します．